

# 中学生サミット通信

令和2年9月15日発行

文京区青少年委員会  
会長 倉田 計介

## 第52回中学生サミット連絡会 ON LINE



第51回中学生サミット連絡会からの「繋がるサミット」となった今回は、新型コロナウイルス感染防止を考慮しての初めての試みで、各中学校を拠点とするオンラインでの開催となりました。通常の学校生活を送れない中で、第51回サミットで決めたテーマの準備不足を考慮し、テーマの変更を行うと共に、各校生徒会での協議時間が取れなくても参加できるよう報告形式でなくグループ討議形式に変更しました。生徒達は、各グループ討議の司会、発表者の役割を分担。他校とのリモート会議という初めての体験に緊張していた様子でしたが、次第に慣れ、どのグループも活発に意見交換を行うことができました。

中学生サミット初の試み、他校とオンラインで繋がる様子



**THEME 1** スマートフォンの持込について  
第51回サミットで話し合いの上決定

**THEME 2** オンラインと学校生活  
“自校の生徒会活動について” から変更



みなさんが見守る中、準備完了



本部も少々緊張気味



4つのグループに分かれて討議中



# 参加生徒の感想

## テーマについて

- Withコロナ時代にスマートフォンやZoomとどう向き合うべきか近い未来を見据えた上でのテーマで良かった。
- 身近にあるテーマだったので話しやすく、話し合いを深めることが出来た。
- コロナウイルスにテーマが限られてしまった感じがした。



## オンライン開催について

- 話をしている人の顔が良く見られて良かったが、目が疲れた。
- 緊張しすぎることもなく、やり易かった。
- 活発に意見交換ができた。
- 機器にうとい人にはやりにくいと思う。



## 「繋がるサミット」について

- 冬のサミットを経て夏までに活動（準備）ができるので良い。
- 他校の参加者の顔を知ることが出来るので良い。
- 冬と夏の出席者が違うと思いが違うのではないかな。

## 中学生サミットについて

- 文京区の中学校が一体感を高めるためにも必要だと思う。
- 他校の意見を聞くことで視野が広がる。
- 深く話し合いたいので、テーマは一つでもよいのではないかな。

## 講評 文京区立中学校長会長 第六中学校長 小椋 孝先生

全体を通して、とても集中してできてよかったと思います。三中、文林中の発表ご苦労様でした。分かりやすくリードしてくれて、その後の議論を活発にしてくれました。

スマホの学校への持ち込みに関して、皆さんのグループ討議で出てきたことは、文部科学省の有識者会議で出たことと全くリンクしており、有識者に成り代わって会議しているようでした。

オンラインの学校生活に関する討議でも、メリット・デメリットを比較したうえで、オンラインの良さや強みを生かしていこうという今後の展望を話したことはとても素晴らしいと思いました。

今回の4人のグループ討議では、離れていてもみんなが画面で正対していたうえ、話す人、聞く人のルールがきちんとできていたので、意見が言い易く議論が深まったと感じました。

中学生サミットのねらいは、生徒会の皆さんが集まって互いに良い影響を与え響き合うことで、より一層力を高めてそれぞれの学校をより良くしていくことです。今日の経験を学校のさまざまな場面で生かしていってください。



次回中学生サミットは令和2年12月5日(土)を予定しています

青少年委員会  
より一言

新型コロナウイルスにより休校が続き、生徒会活動も十分にできない中で、感染予防対策に十分に配慮し、生徒会の発表の場としてオンライン形式で開催しました。

中学校長会のご理解、教育総務課のバックアップ、学務課の全面的な協力、普段は来賓としてご覧いただいている多くの皆さまからのご協力により中学生サミット連絡会を開催することが出来ました。各学校の先生方のサポートにより会もスムーズに進行しました。ご協力いただきましたみなさまと、参加してくれた生徒に感謝します。ありがとうございました。通常とは異なる状況の中でも、生徒会活動の新しいやり方を考えながら中学校生活を仲間と共に楽しんで欲しいと思います。